



生きる力を

福島県教育庁会津教育事務所(業務)次長 佐藤 信高

2001.3.13
第114号

編集・発行
福島県教育庁
会津教育事務所
峯 島 和 彦
編集協力
沼津市立第一小学校
沼津市立第二小学校
沼津市立第三小学校
沼津市立第四小学校
沼津市立第五小学校
沼津市立第六小学校
沼津市立第七小学校
沼津市立第八小学校
沼津市立第九小学校
沼津市立第十小学校
沼津市立第十一小学校
沼津市立第十二小学校
沼津市立第十三小学校
沼津市立第十四小学校
沼津市立第十五小学校
沼津市立第十六小学校
沼津市立第十七小学校
沼津市立第十八小学校
沼津市立第十九小学校
沼津市立第二十小学校
沼津市立第二十一小学校
沼津市立第二十二小学校
沼津市立第二十三小学校
沼津市立第二十四小学校
沼津市立第二十五小学校
沼津市立第二十六小学校
沼津市立第二十七小学校
沼津市立第二十八小学校
沼津市立第二十九小学校
沼津市立第三十小学校
沼津市立第三十一小学校
沼津市立第三十二小学校
沼津市立第三十三小学校
沼津市立第三十四小学校
沼津市立第三十五小学校
沼津市立第三十六小学校
沼津市立第三十七小学校
沼津市立第三十八小学校
沼津市立第三十九小学校
沼津市立第四十小学校
沼津市立第四十一小学校
沼津市立第四十二小学校
沼津市立第四十三小学校
沼津市立第四十四小学校
沼津市立第四十五小学校
沼津市立第四十六小学校
沼津市立第四十七小学校
沼津市立第四十八小学校
沼津市立第四十九小学校
沼津市立第五十小学校
沼津市立第五十一小学校
沼津市立第五十二小学校
沼津市立第五十三小学校
沼津市立第五十四小学校
沼津市立第五十五小学校
沼津市立第五十六小学校
沼津市立第五十七小学校
沼津市立第五十八小学校
沼津市立第五十九小学校
沼津市立第六十小学校
沼津市立第六十一小学校
沼津市立第六十二小学校
沼津市立第六十三小学校
沼津市立第六十四小学校
沼津市立第六十五小学校
沼津市立第六十六小学校
沼津市立第六十七小学校
沼津市立第六十八小学校
沼津市立第六十九小学校
沼津市立第七十小学校
沼津市立第七十一小学校
沼津市立第七十二小学校
沼津市立第七十三小学校
沼津市立第七十四小学校
沼津市立第七十五小学校
沼津市立第七十六小学校
沼津市立第七十七小学校
沼津市立第七十八小学校
沼津市立第七十九小学校
沼津市立第八十小学校
沼津市立第八十一小学校
沼津市立第八十二小学校
沼津市立第八十三小学校
沼津市立第八十四小学校
沼津市立第八十五小学校
沼津市立第八十六小学校
沼津市立第八十七小学校
沼津市立第八十八小学校
沼津市立第八十九小学校
沼津市立第九十小学校
沼津市立第九十一小学校
沼津市立第九十二小学校
沼津市立第九十三小学校
沼津市立第九十四小学校
沼津市立第九十五小学校
沼津市立第九十六小学校
沼津市立第九十七小学校
沼津市立第九十八小学校
沼津市立第九十九小学校
沼津市立第一百小学校

二十一世紀明けて四日の早朝、大雪に驚き、足跡のない雪の中をこぎ歩きながら、昔を思い出す。屋根も道も、杉や檜や銀杏の大木も、たっぷりと雪に覆われ、さらにしんしんと降る雪は、決して音を立てない。

幼いころ、大叔父は、いろいろを囲んで、草履を作ったり糞を編んだりしながらたくさんのお話をしてくれました。中でも、阿倍仲麻呂の「東海姫司國」は、圧巻であった。唐の皇帝たちの満座の中で見事に白文を読み下した逸話を、身振り手振りで語る様子は、幼少の子供に十分真実を思わせた。想像することは、楽しかった。白文は、いつの間にかそらんじて、今でも忘れない。

大学三年生の夏、国文学の論文を書く羽目になったが、行き詰まって遠方に暮れたことがあった。暑い日の夕方、オンボロ木造校舎の研究室の中で、大学を中退して逃げ出そうかと歩き回っていたとき、空側の柱に掛けてあった丸い額が目に入った。「先人見を捨てて、よく読み、次いでよく考える。これが私の視学の指針です。武田宗俊」白髪の老教授、源氏物語と文芸学の大家の書であった。この言葉に励まされて、研究書の呪縛を離れ、夏目漱石の「行人」との新たな格闘を始めた。作品としての不整合は主題の分裂なのだと思いついたときは天にも駆け上がる思いであった。借り物ではなく、自らの力で考え、わかることの喜びを実感した。

この体験は、授業の創造にもつながった。宮澤賢治の「やまなし」を理解できないまま放棄した悔しさから、「よだかの星」の延長として、「やまなし」の新しい読みを発見し、「トブ」の表現を中心に授業の土台とした。弱肉強食の世界である「五月」と、殺し殺されることのない世界としての「十二月」の対比、それに反応する蟹の親子の

姿勢に賢治の考えが込められているとわかったとき、子供たちは、喜びに湧き、教室全体に充実感がみなぎった。やっと創造的な授業が成り立ったと確信した。「生きる力」が、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく課題を解決する能力」であるとき、私の「生きる力」をはぐくんできたのは、まぎれもなく大叔父であった。「度十公園林」の度十にも似た大叔父は、死の間際、東京から駆けつけた私の手にすがりながら、無名の教育者としての最後の「生きる力」を私に与えた。

新しい世紀を迎えた大雪の夜、大叔父の思い出の向こうに、変化の激しい価値観の多様化するこれからの時代の中で、自らの力で新しい事態に対応でき、困難に向かって道を切り開く「生きる力」を子供たちにはぐくむ教育的な営みをどう創るのか、自らの生い立ちを顧みて決意を新たにしたい。

各種受賞紹介

- 文部大臣表彰 (敬称省略)
 - ・地方教育行政功労者 前会津若松市教育委員会教育長 宗像 精
 - ・学校給食 会津若松市立一箕小学校
 - ・学校安全 会津若松市立松長小学校
 - ・学校保健 前喜多方市立興食小学校・外2校学校長
 - ・体育功労者 大竹 喜理 会津体育協会会長
 - ・社会体育優良団体 会津水泳連盟
 - ・体育指導委員功労者 松崎 繁(喜多方市)
- 県教育委員会表彰
 - ・地方教育行政功労者 熱地加納村教育委員会委員長 田部吉兵衛
 - ・学校教育功労者 会津若松市立城北小学校 萬實清一郎
 - ・社会教育関係功績顕著な団体・施設 河 東 町 公 民 館 会津若松市立城南小学校PTA 室井 文輔
 - ・保健体育功労者 会津若松市体育協会会長 幸 夫
 - ・保健体育関係功績顕著な団体・施設 全会津剣道連盟 永年動統教職員 二十三名
- 文部科学省大臣表彰
 - ・平成十二年度文部科学省 調査統計功績者表彰 地方教育費調査 会津若松市教育委員会
- 日本体育・学校健康センター 福島県支部長表彰
 - ・学校安全優良学校 山都町立山都第二小学校
 - ・福島県学校歯科保健優良校表彰 最優秀校 塩川町立塩川小学校
 - ・山都町立山都第二小学校
 - ・高郷村立高郷中学校
 - ・優秀校 河東町立河東第三小学校
 - ・喜多方市立豊川小学校
 - ・高郷村立高郷第一小学校
 - ・高郷村立高郷第三小学校
- 県学校給食会会長
 - ・県学校給食研究会会長表彰 学校給食優良団体・個人 会津若松市立城西小学校主任務務主査 安 倍 千恵子
- 第五十一回学校関係 緑化コンクール
 - ・福島県緑化協会賞 会津若松市立湊小学校
 - ・福島県緑化センター理事賞 福島県緑化センター理事賞 新鶴村立新鶴小学校
 - ・福島県緑化推進委員会理事賞 北塩原村立第一中学校
- 環境美化教育優良校表彰
 - ・リサイクル部門 食品容器環境美化協会賞 柳津町立西山小学校
- 福島県学校教職員研究論文入賞者 特選
 - 会津若松市立鶴城小学校教諭 渡 部 憲 生
 - 喜多方市立第一小学校教諭 五十嵐 喜 浩
 - 入選 喜多方市立第一小学校教諭 真 部 弘 之

社会教育調査 喜多方市教育委員会

学校教育相談

「母子分離不安」からの自立

学校教育相談員 立川 昭夫

S男は小学校入学直後から「登校しぶり」を表出、教頭の迎えの車での登校による学校生活のスタートとなった。

長し、強度の「母子分離不安」を抱きながら、父が行方不明のため祖母との二人暮らしで

愛も顔も知らずに成長した。S男は母の誕生間もなく両親が離婚。S男は母と一緒に授業を。②祖母と一緒に集団登校へ。教室の祖母の席を徐々にS男から遠ざける。水泳の時間は校長室で校長との話し合いを設定、祖母

とS男を学校へ。教室では、S男の隣りに祖母の席を用意し一緒に授業を。②祖母と一緒に集団登校へ。教室の祖母の席を徐々にS男から遠ざける。水泳の時間は校長室で校長との話し合いを設定、祖母

をS男から分離。③集団登校は学校までは祖母と一緒にであるが学校着後は祖母は校舎内に入らずに帰宅。④S男の自立。付添いなしの集団登校と明るく元気な学校生活。

作戦が功を奏し、S男は完全に自立したのである。桜花爛漫の春の到来は季節はずれの九月半ばのことであった。S男の自立を固く信じ、苦難を乗り越えて取り組まれた家庭と学校の熱き絆に、そして、見事に自立したS男に、心からの拍手を捧げたい。

私の実践

互いにかかわり合いながら考えを深化・発展できる授業の実践

佐藤拓也 佐藤拓也

これまで自分、問題解決的学習と称して、調査活動やその成果の発表を重視するあまり、子どもどうしが考えや認識を深め合えない授業になりがちでした。その反省から、「互いにかかわり合いながら考えを深化・発展できる授業の工夫」を研究目標に授業の質的改善を図ってきました。

①相互交流学习の工夫。その目標達成のためには、①相互交流学习の工夫。実践の結果、子どもたちは、立場や役割を替えた討

論や役割を交換するロールプレイングなどの表現活動に興味をもち、生き生きと取り組む姿が見られ、学習意欲と課題意識を高めることができました。また、この相互交流学习を通して、子どもたちは、話し合いの論拠となる資料の活用能力を高めながら、多様な考え方に触れることで、自分の意味認識を再構築し、社会的現象への理解を深めていけるようになってきました。

しかし、相互交流学习を行う際には、課題設定・解決における個に応じた支援と学習内容や用語など基礎・基本の確かな定着が必要であり、今後の課題だと考えます。



会津米沢街道松原歴史館

地域に学ぶ

大塩峠から北へ下ると大塩川に架かる境橋があり、境橋の北東約一キロメートルの中ノ七里は、若松から七里、米沢からも七里なのでこう呼ばれた。中ノ七里の北東約五〇〇メートルで小塩川を渡ると坂道となり、登りつめる。蘭峠である。蘭峠から北東へ会津川に沿って下ると松原集落がある。

この集落は、明治二十一年磐梯山の噴火によって松原川などがせき止められてきた。大塩峠から北へ下ると松原集落がある。

歴史の道

北塩原村教育委員会

北塩原村を若松から米沢へ通じる米沢街道が通っている。街道は、関屋・樟・大久保・大塩を通り、大塩からは大塩峠・蘭峠を越えて松原へ出る。松原から金山を通り松原峠を越え米沢へと通じる。

た松原湖の湖底に宿駅であった松原宿が沈んだため、その一部が移転してできたものである。旧街道はまっすぐ湖底へ入り湖底で東へ折れたところが松原宿の中心であった。旧街道は湖底でさらに北へまがり金山集落の西端へ通る。ここには元の松原宿から移転した松原宿本家旧宅があり、現在は「会津米沢街道松原歴史館」として再生され、展示・休憩施設として利用されている。

私の抱負

冬の決で

会津若松市立湊小学校
校長 渡部 和俊



青空に白く輝く磐梯山の雄姿、零下十数度の朝のダイヤモンド、ラスト現象など、

湊の冬の魅力を感じながら、特色ある教育活動を展開している。

中でも、白鳥を迎える会、四季餅の出発式、おばあちゃんたちから学んだんごさし、体育のクロスカントリースキーの授業などは、湊ならではの活動である。

また、スキーのスポーツ少年団活動も盛んで、各種大会で大活躍してくれている。

今後も児童優先の学校経営に努め、湊小学校を「真の学び舎」にしていきたい。

共に創る

猪苗代町立西山中学校
教頭 菊地 裕二



かつては施設開放や授業公開をイメージしていた「開かれた学校」を、今は

そのことのみならず、教育目標具現に向けた経営そのものと結果を、地域社会に明らかに示すことであると捉えている。

学校教育の目的、生徒の願い、保護者・地域社会の期待をもとに、目指す生徒像を明瞭にして協力を深め、教育活動にあたるのが重要であると考える。今後、学校の自主性や裁量権限がますます拡大される中、校長の指導の下、魅力ある真に開かれた学校づくりに努めていきたい。

今の「熱意」を忘れずに

北会津村立北会津中学校
教諭 星 美穂



残り一か月で初任者としての一年が終わろうとしている。振り返ってみると、

無我夢中になって毎日を送ってきたように思う。その間、学校での実践や対外的研修などを通して「生きる力」を育てることの大切さを体験し、実感できた。

これからは、今の熱意を忘れずに日々自己研鑽に励んでいくと共に、その中で学び取った様々なことを自分なりに創意工夫をして、子どもたちのために生かしていきたいと思う。さらに、子どもたちと積極的に触れ合っていく中で、人間らしい生き方について共に考え、共に成長していきたい。

心に残る人々

猪苗代町教育委員会教育長

大坂 恭一



昨年九月末日付で三十六年六ヶ月にわたる教員生活を終えました。

その間、沢山の先生方、児童生徒・保護者の方々と出会い、それぞれの皆さんから沢山のことを学ばせて頂きました。文字通り「我以外皆師なり」の毎日でした。

しかし、この度のオーストリアケープルカー事故に巻き込まれた猪苗代中の五人の生徒は、私にとって別な意味で忘れられないことのできる生徒となりました。

あの子どもたちの保護者の多くの方は、かつて私が猪苗代中に勤務した時の教員たちでした。スキーなどそれぞれの部活動に情熱を持って頑張っておりまして、そして、

あの子どもたちもまた、親の姿を見て成長してきました。三年前猪苗代小に戻ってきた時、六年生としてスキーをはじめ各種の活動や学習にひたむきに取り組んでおりまして、「子供は親の姿を見て育つ」とよく言われます。そのことわざ通りであり、その努力を誉め讃えながら卒業証書を手渡した子供たちでした。親子二代の出会いが教師冥利に尽きますがあまりにも無残な出会いでもありません。

作品と指導

なかよくあそんだよ

河東町立河東第三小学校
二年 矢吹 友佳



〈指導の工夫〉
国語科、生活科との合科で、本作品の制作に取り組んだ。
本校で飼育しているうさぎやチャボとふれ合った楽しい思いを、画面いっぱいに描かせた。特に、児童の発想と表現力を生かした活動が展開できるように、何種類かの色画用紙の中から用紙を選択させたり、包み紙を貼るなどの自由な表現活動を促したりした。

指導者 大西 重子

読書

那覇郡西会津町立奥川中学校
二年 坂井 視美



〈指導の工夫〉
手本を凝視し、たっぷり墨液を含ませた筆を勢いよく滑らせる。この生徒のいつもの姿勢である。点画の省略や筆順の変化など、行書の特徴を理解して練習を繰り返してあり、素直で大らかな性格がそのまま伝わってくるような作品に仕上がっている。
今後の課題として、文字の配置に気を配り、調和よく書くことをねらいとさせたい。

指導者 玉木 薫子

スイカを食べる

会津高田町立旭小学校
五年 佐藤 みゆき



〈指導の工夫〉
みゆきさんは、日頃から、絵を描くことがとても好きです。紙絵で夏のイメージを表現したい、大きなスイカを描きたいという思いは、とても強いものでした。それで、構想の時間を短くして、すぐに色紙を手にしたため、終始生き生きと活動していました。
会話でイメージを広げた後、遠くの景色を描きあげました。

指導者 鈴木 真由美